

随泉寺寺報

平成16年(2004年)6月号 第406号

082-892-0217 <http://ww41.tiki.ne.jp/~tetunari4/>

浄土真宗本願寺派 高峯山随泉寺

前期門信徒講座

講師 呉市 明円寺住職 竹田 嘉円師

講題 「お浄土とは」

花の色は うつりにけりな いたづらに
わが身世にふる ながめせしまに (古今113) 小野小町
【通釈】花は色褪せてしまったなあ。我が身を徒(いたづら)にこの世に置き、む
なしく時を経るばかりの、物思いをしていた間、空からは長雨が降り続けてい
た、その間に。

ここでの花はおそらく桜のことでしょう。しかし、紫陽花
(あじさい)の花を見ていると、この歌を思い出します。桜の花
と違い、咲き始めから咲き終わりまで一ヶ月以上楽しませてくれま
す。この花の特徴はなんと言っても、一雨ごとに色鮮やかに色を
変えて、楽しませてくれる事でしょう。

わが身に起こるさまざまな出来事に 現(うつつ)を抜かしてい
た間に いたづらに時は流れていってしまい、気がついて見たら、なんと、姿か
たちは変わってしまっていた。『西路を指授せしかども 自障障他せしほどに
曠劫以来もいたづらに むなしくこそはずぎにけれ』



6月の法座予定

- 6月14日 昼席午後1時より.....門信徒講座
- 6月14日 夜席午後7時半より.....出張法座 平原東 榎田氏宅
- 6月15日 朝席午前10時より.....門信徒講座 門信徒会総会 昼食あり
- 6月15日 昼席午後1時より.....門信徒講座
- 7月 2日 午後6時より.....門信徒会本部役員会

千の風

訳 新井 満

私の墓前で泣くのはやめてください
私はそこにいません。私は眠っていないのです



私は千の風となって、空を渡っています
私はダイヤモンドのきらめきとなって 雪に
舞っています
私は太陽の光となって、豊穡の実りを与えて
います
私は優しい秋の雨となっているのです
あなたが静寂の朝を迎えたならば
私はツバメとなって飛び立ちましょう
歌わぬ小鳥は音もなく
輪を描き空高く舞いあがるでしょう
私は夜に輝く静かな星となっているのです

だからどうか

私の墓前で泣くのをやめてください
私はそこにいません。私は死んではいないのです

人には必ず死があるものですが、その死を、とくに愛する人の死を受け入れることは、
とても難しいことです。でも、この詩を読んでいると、心が落ち着き、ゆったりとし
た空気に包まれていく。そして、その空気、風の中に大切な人を感じる...。いったい
この詩を、誰が読んだのでしょうか。

この「絵本 千の風になって」は、この詩を日本語に訳した芥川賞作家・新井満氏が、
この詩がいつ、どこで生まれたのかを考えているうちに生まれたお話です。

初参式を開催いたしました。

去る5月15日降誕会の朝席の後平成15年生まれの
中元 海里君、米廣 友哉君、竹下 佳吾君、
川崎 桜良さん、祭田 愛美さん、今田 惇温君の
初参式(初参り)を開催しました。仏の子供として元
気に育ってください。



御礼

永代経懇志 拾萬円 八木 博文殿 故 八木 博幸様 特別永代経志として
式拾万円 川野 博康殿 故 川野 等様 特別永代経志として
門信徒会 金一封 川野 博康殿 故 川野 等様 香典返しにかえて

長者原西 八木 幸枝

息子へ

母より

君を授かりし この腕に
私の宝よと いつくしむ歲月
なのに20歳(はたち)の頃より 心の病に
苦しむ 君の姿
母の胸も 痛みます



世間知らずの この母も
君と共に 育ちましよう
何でもうちあけて 話して欲しい
一人でなやまずに。
強く生きようネ 母と一緒に

今が君の 氷河期なれば
しっかり受けとめて
春が来るのを 待ちましよう
世間の目も口もなんのその
力の限り 守りたい
母の愛で一。

3月24日皆で囲んだ夕食後、「僕の好物ばかりだね お父さんも、お母さんもやさしいネ。ありがとう」と言った3時間後、バタリと倒れた愛しい息子の、49日の取り越し法要も済み、一区切りと思いしも 日時の経つほどに、何をみても何をしても寂しさと空しさの繰り返し、そして追憶の毎日です。世間知らずのこの母も、慈しむ子から教えられることばかりで、共に育てられた思いです。

偲ぶ数々の中でも とりわけ鮮明なのは 魚釣りから生きたままの魚を持ち帰ると「可哀想に・・・。」と言って必ずお念仏を唱えたり、益虫、害虫を問わず はえとか蚊にいたるまで、生きてるものは絶対に殺せず、手で追い払うのみ、正に野菜にいたるまで 私達人間は生命あるものを食して、生かさせて頂いてる、それが「いただきます。」の感謝の心と言葉だということを実践して、教えられました。そして、この度の40歳での早い別れも【強く生きて！】を私への試練のメッセージとうけとめ、これから来る息子の百ヶ日・一周忌・三回忌・・・とさらに長く長く3月24日の命日を迎えて力の限り守りたい！！母の愛で一。 合掌

八木 幸枝

正直者からは 正直者の光が

カレンダー6月号 東井 義雄

東井先生は昭和四十七年三月、兵庫県八鹿町の八鹿小学校校長を定年退職されました。

以下は、そのときにお書きになったものです。

私が、三月末で職を退くということを聞いたS地区のおとうさん方が「お別れが避けられないなら、ぜひ、この地区の子どもたちのために、先生のことばを書き遺しておいてやってください」と、大きな紙をもってこられました。

字を書くことの手くそな私なのですが、遺言のつもりで、勇を鼓して、私は、次のように書きました。

自分は自分の主人公

自分は、自分の主人公 世界でただ一人の自分を創っていく責任者
少々つらいことがあったからといって ヤケなんかおこすまい
自分を自分でダメにするなんて バカげたことってないからな
つらくたって がんばろう

つらさをのりこえる 強い自分を 創っていこう

自分は自分を創る 責任者なんだからな

しっかり者からはしっかり者の光

まじめな人からはまじめな人の光

正直者からは正直者の光

やんちゃ者からはやんちゃ者しか持たない

やんちゃ者の光

男からは男の光 女からは女の光

おじいちゃんからはおじいちゃんの光 おばあちゃんからはおばあちゃんの光

おとうさんからは おとうさんの光 おかあさんからは おかあさんの光

若者からは若者しかもたない若者の光

未来をつくる子どもからは 夢と希望の子どもの光

ひとりの喜びはみんなわけて大きい喜びにして喜びあい

ひとりの悲しみはみんなわけて小さくして背負いあい

いばつたり いばられたり いじめたり いじめられたりする関係を追っばらい

みんな仲良く ひとり残らず 存分に光を放ちあって生きられるような

光いっぱい地区 光いっぱい町を つくろうじゃないか

だって 自分の地区 自分の町だもんな

自分はその主人公 責任者なんだからな。

